



平成23年11月19日

第9回ITER理事会の開催結果について

11月17、18日に、フランス・カダラッシュにて開催されました「第9回ITER理事会」の結果概要についてお知らせいたします。

(同時配布：青森県政記者会、三沢市政記者会、茨城県政記者クラブ)

1. 日時：平成23年11月17日（木） 9：00～18：20（現地時間）
11月18日（金） 9：00～13：30（現地時間）
2. 場所：フランス・カダラッシュ
3. 議題：
 - (1) 開会挨拶（議長、各極代表、機構長）
 - (2) ITER機構活動報告、諮問委員会等からの報告
 - (3) ITER計画のスケジュール
 - (4) ITER機構の予算（2011年予算執行状況、2012年予算案、等）
 - (5) その他
4. 各極参加者等： 別添のとおり
5. 添付資料： 本理事会共同プレスリリース（英文・仮訳）
6. その他：
 - ・「ITER計画」の概要については、以下の文部科学省及びITER機構のホームページをご参照ください。
文部科学省ホームページ：http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/iter/main.htm
ITER機構ホームページ：<http://www.iter.org/default.aspx>

<担当> 研究開発局 研究開発戦略官付
研究開発戦略官 片岡 洋（内線4559）
補佐 中田 栄介（内線4542）
電話：03-5253-4111（代表）
03-6734-4559（直通）

第9回ITER理事会出席者

議長：ベリホフ クルチャトフ研究所総裁

日本：藤嶋 国際統括官 ほか

欧州：リベラリ欧州委員会研究総局エネルギー局長 ほか

中国：曹（ツァオ） 科学技術部副部長 ほか

インド：グローバー 原子力庁最高顧問 ほか

韓国：楊（ヤン） 教育科学技術部基礎研究政策局長 ほか

ロシア：ボロフコフ ロシア連邦政府国防産業委員会機関長 ほか

米国：ブリンクマン エネルギー省科学局長 ほか

ITER機構：本島 機構長 ほか

(参 考)

ITER理事会について

ITER計画は、核融合エネルギーの実現を目指し、日本、欧州、米国、ロシア、中国、韓国、インドの7極の協力の下に、国際熱核融合実験炉（ITER；イーター）の建設・運転を行う国際共同プロジェクトである。

ITER理事会は、ITER加盟極の代表（各極4名ずつ）で構成される。ITER機構の活動の促進、全般的な指導及び監督について、責任を負い、ITER協定^(※)に従って、いかなる問題又は事項についても決定及び勧告を行うことができるITER計画の最高意志決定機関である。

(※) 正式名称；イーター事業の共同による実施のためのイーター国際核融合エネルギー機構の設立に関する協定

○ITER計画に関するこれまでの経緯

H18年11月 ITER協定署名（フランス・パリ）

— ITER協定の暫定適用

第1回暫定ITER理事会（フランス・パリ）

H19年7月 第2回暫定ITER理事会（日本・東京）

H19年10月 ITER協定発効

— ITER機構正式発足

— ITER機構に調達機器の納入等貢献を行う日本の国内機関として日本原子力研究開発機構（JAEA）を指定

H19年11月 第1回ITER理事会（フランス・カダラッシュ）

— 池田ITER機構長正式就任

H20年1月 ITER機構がフランス政府にITER施設建設認可を申請

H20年6月 第2回ITER理事会（日本・青森市）

H20年11月 第3回ITER理事会（フランス・カダラッシュ）

H21年5月 ITERサイト地盤整備完了

H20年6月 第4回ITER理事会（日本・水戸市）

H21年11月 第5回ITER理事会（フランス・カダラッシュ）

H22年6月 第6回ITER理事会（中国・蘇州市）

H22年7月 臨時ITER理事会（フランス・カダラッシュ）

— ITER計画ベースライン文書合意

— 本島ITER機構長就任

H22年11月 第7回ITER理事会（フランス・カダラッシュ）

H23年6月 第8回ITER理事会（日本・青森市）

H23年11月 第9回ITER理事会（フランス・カダラッシュ）

Contact:

Michel Claessens
michel.claessens@iter.org
+33 6 14 16 41 75

Comments:

ITER COUNCIL MEETS: NOTES SIGNIFICANT PROJECT PROGRESS

During its ninth meeting in Cadarache (France), the Council noted a highly productive period of project execution under the ITER Organization's leadership, including the successful efforts to advance ITER design and construction, contain costs and minimize delays, especially in the face of the Great East Japan earthquake. This ITER Council was chaired by Academician Evgeny Velikhov. Dr. Hideyuki Takatsu of Japan will succeed him as Chairman of the ITER Council on 1 January, 2012.

CADARACHE, France (18 November 2011). On 17 and 18 November 2011, the ITER Council, the Governing Body of the ITER Organization, convened for its ninth meeting, which brought together representatives from the seven ITER Members: China, the European Union, India, Japan, Korea, Russia and the United States under the chairmanship of Academician Evgeny Velikhov (Russia).

china

eu

india

japan

korea

russia

usa

Council members recognized that under the leadership of the new management since the previous ITER Council held in June 2011, the ITER Organization has taken a number of positive steps in improving management, gaining control of costs and making technical decisions that will enable continued effective project construction.

Council members were also informed on the positive outcome of the public inquiry, which allowed citizens to express their opinions and to ask questions about the project. On 19 September, the public inquiry commission, on the basis of these contributions, issued a 'favourable' opinion on the ITER project. This is a key step towards the full licensing of ITER.

The Council commended the development of a strategic management plan to minimize potential delays due, in part, to the earthquake in Japan. In particular, the Council confirmed that the project is within the schedule and cost decided at its extraordinary meeting in July 2010.

The ITER Council noted that 60 Procurement Arrangements have been signed, representing 71.5 percent of the total procurement value of ITER construction. Council endorsed the cost strategy proposed by the ITER Organization to stay within the capped budget.

The Council noted the high quality of the report of the Management Assessor that recognizes the positive impact of the new leadership while giving detailed recommendations to promote further improvements. A report on the implementation of these recommendations by the ITER Organization's Director-General will be made at the next ITER Council meeting in June 2012 (IC-10).

Following the completion of the term of Academician Evgeny Velikhov as the ITER Council Chair, Dr. Gyung-Su Lee as the MAC (Management Advisory Committee) Chair and Prof. Wan Yuanxi as the STAC (Science and Technology Advisory Committee) Chair at the end of this calendar year, the Council elected Dr Hideyuki Takatsu, Dr. Ranjay Sharan and Prof. Joaquin Sanchez as their respective



successors. Council members thanked the outgoing Chairs for their contribution and welcomed the new Chairs.

BACKGROUND TO THE NEWS RELEASE

ITER will be the world's largest experimental fusion facility and is designed to demonstrate the scientific and technological feasibility of fusion power. ITER is also a first-of-a-kind global collaboration. Fusion is the process which powers the sun and the stars. When light atomic nuclei fuse together to form heavier ones, a large amount of energy is released. Fusion research is aimed at developing a safe, abundant and environmentally responsible energy source.

The ITER project is sited at Cadarache in the South of France. Europe will contribute almost half of the costs of its construction, while the other six Members to this joint international venture (China, India, Japan, the Republic of Korea, the Russian Federation and the USA), will contribute equally to the rest.

Photos of the Council Meeting can be found at: http://www.iter.org/gallery/com_image_download

Additional photos of ITER can be found at: http://www.iter.org/gallery/com_image_download

Further information at <http://www.iter.org/>

プレスリリース（仮訳）

ITER理事会が開催：プロジェクトの大きな前進を確認

理事会は、カダラッシュ（フランス）における第9回会合において、ITER機構のリーダーシップの下、プロジェクトがとても生産的に実施されていることに留意した。これには、ITERの設計及び建設を進め、コストを抑制し、特に東日本大震災に直面したプロジェクトの遅延を最小化するための成功裏の努力が含まれる。本ITER理事会は、エフゲニー・ベリホフ氏によって議長が務められた。日本の高津英幸氏が2012年1月1日にITER理事会議長として後任に着く。

フランス、カダラッシュ（2011年11月18日）

2011年11月17、18日、ITER機構の最高意思決定機関であるITER理事会は、その第9回会合を招集した。エフゲニー・ベリホフ議長（ロシア）の下、中国、欧州連合、インド、日本、韓国、ロシア、及び米国の7つのITER加盟極からの代表が一堂に会した。

理事会メンバーは、新たなマネジメントのリーダーシップのもと、2011年6月の前回ITER理事会以来、ITER機構が持続的に効果的なプロジェクトの構築を可能とするマネジメントの改善、コストの管理の強化、及び技術的な意志決定において、多くの前進を果たしたことを認識した。

また、理事会メンバーは、公開ヒアリングの肯定的な結果を知らされた。この公開ヒアリングは、市民がITER計画に対する意見や質問を行えるもの。公開ヒアリング委員会はこれらの意見等に基づき、9月19日にITER計画に対して「賛同」との見解を公表した。これは、ITERの全ての許認可に向けた重要なステップである。

理事会は、部分的には日本の震災に起因する潜在的な遅延を最小化するための戦略的マネジメントプランの策定を称賛した。特に、理事会はプロジェクトが2010年7月の臨時理事会において決定されたスケジュール及びコストの範囲内にあるということを確認した。

ITER理事会は、60の調達取決めが締結済みであることに留意した。これはITER建設全体の調達価値の71.5%に当たる。また、理事会は、予算の上限値を守るためにITER機構によって提案されたコスト戦略を是認した。

理事会は、新たなリーダーシップの前向きな影響を認識し、一方で更なる改善を促進するための詳細な提案を与えた運営評価人の質の高い報告書に留意した。ITER機構の機構

長によるこれらの提案の実施について、2012年6月の次回ITER理事会会合（IC-10）において報告される。

エフゲニー・ベリホフ氏のITER理事会議長、ギュンス・リー氏の運営諮問委員会（MAC）議長、及びワン・シャンシー氏の科学技術諮問委員会（STAC）議長としての任期が本年末に満了することに伴い、理事会は高津英幸氏、ランジャイ・シャラン氏及びホアキン・サンチェス氏をそれぞれの後任として選出した。理事会メンバーは、退任する議長達の貢献に対して感謝の意を示すと共に、新しい議長達を歓迎した。

ニュースリリースの背景情報

ITERは、世界で最も大きな核融合実験装置であり、核融合エネルギーの科学技術的実現可能性を実証するために設計されている。ITERはまた、世界的な協力の最初の機器である。核融合とは、太陽及び星々にエネルギーを与える反応過程である。軽い原子核が融合して重い原子核を形成する時、膨大なエネルギーが解放される。核融合研究は、安全、豊富な資源、及び環境適合性のあるエネルギー源の開発を目指したものである。

ITER計画は、南フランスのカダラッシュにて進められる。欧州は建設コストのほぼ半分を負担し、この国際協力プロジェクトに参加する他の6極（中国、インド、日本、韓国、ロシア、米国）は、残りのコストに等しく貢献する。

理事会会合の写真は以下を参照されたい。

http://www.iter.org/gallery/com_image_download

ITERの更なる写真は、以下を参照されたい。

http://www.iter.org/gallery/com_image_download

更なる情報は www.iter.org を参照されたい。